

第 16 回「先を見越す、について考える」(2011/12/16)

場所：クライン・ブルー（神田神保町）

司会：野田、文責：野田

参加者：13 人

要約：「先を見越す」プロセスについて主に議論しました。「先を見越す」ことの限界や、「先を見越すこと」見越さなかったことの影響にも話が及びました。

お題の説明：1 秒でも、10 年でも、100 年でも、とにかく今よりも未来のことについて、何か頭の中で、考えたり、予測したりすることについて考えました。

内容：

1. どんな時に「先を見越し」しているか

- ・ 日常生活の中で、至る所で「先を見越し」している。料理をする際に、調理工程の一つ一つの段取りを考えたり、料理の出来上がりについて考えるといった、近い未来のことを考えたり、将来、年金が貰えるだろうかといった、遠い先のことを考えたりする。
- ・ 「先を見越さ」ないと不安である。明日生きて、日常生活を送ることが出来ることを毎日見越している。

2. どうやって「先を見越す」か

- ・ いつも同じことの繰り返しがあると、又繰り返しがあるだろうと思って「先を見越す」ことが出来る。
- ・ 願望や欲望があって先を見越す場合がある。司法試験を受かることで弁護士になりたいので勉強する。車を運転中、早く帰宅したいという願望が、目の前の危険に気づくのを妨げることがある。
- ・ 願望に基づいて「先を見越す」場合は繰り返してしまう。
- ・ 逆に不安や恐れに囚われることで、先を見越す場合がある。
- ・ 漠然とした思いや直感に従って、或いは経験や論理に基づいて頭の中でシミュレーションを行って、先を見越す。

複数の先を見越した場合や、世界の解釈に矛盾があって（例：右折レーンの車が左ウィンカーを出す）見越すのが難しい場合は論理的に考え、判断する。**論理的に考える手法として、演繹法や帰納法を用いることがある。**

- ・ 「先を見越す」際には、沢山の未来を考えてはきりがないので、起こる確率が少ない場合は、切り捨てる。
- ・ 無意識的には複数の「先」を見越せない。注意深く、慎重に、意識的に見越す場合において複数の「先」を見越す。
- ・ 何回も「先を見越し」て、経験を積むことが出来る状況では、先を見越した結果と、現状を比較して、自分の「見越し方」を修正する。
- ・ 過去の経験に基づいて「先を見越す」場合、過去の実際の経験のうち、自分の願望や恐れによって選択された一部の経験に基づいて見越してしまっていて、間違ってしまうことが

ある。

3.先を見越しにくいことがある

- ・ 司法試験の受験勉強の際に、根気が続くかどうかなど、長いスパンのことは予測しにくい。
- ・ 第三者が関与すると予測しにくい。
- ・ 突然の病気や不幸など突発的な出来事は予測しにくい。
- ・ 「先を見越す」ことで、却って視野が狭くなり、他の可能性を見失ってしまうことがある。

4.「先を見越せない」といけないか。

- ・ 人間万事塞翁が馬であり、「先を見越し」切れなかったことに、いいことがあるかもしれない。
- ・ 全部予測できると楽しくないのか。楽しくないならなぜ楽しくないのか。
- ・ 第一希望の会社に入れなかったとしても、楽しいかもしれない。思っていなかった状況を楽しめる力というものがある。
- ・ 予想を裏切られるということは、科学の世界では新発見である。

司会個人としては、「先を見越す」プロセスについて関心がありましたが、「見越せない」ことの楽しさや、見越せなかった時にどうするかについての話題が挙がったのが興味深いと感じました。

参加者の方から、「お題が広すぎる。もう少し設定を細かくしてもいいのでは」というコメントを頂きました。正直、担当した中では最も広いお題だと思います。今後の検討課題とします。